



杉並区の防災のあり方について、一般質問を行う（以下概略）

● 総合震災訓練について

- Q. 今回の総合震災訓練を区としてどのように総括するのか。
- A. 住民の創意工夫による参加者の意識や対応力の向上、解決すべき課題の洗い出しと共有化、中学生や高校生の参加などの成果があった。
- Q. 今後、首都直下型地震を想定した震災救援所の訓練に特化すべきではないか。
- A. 訓練想定をよりリアルな状況に設定し、参加者の危機意識や緊迫感を高めていく。
- Q. 地域行事との兼ね合いを考慮し、訓練日程の変更は可能か。
- A. 来年度からは、実施時期なども考慮しながら、実践的で効果的な訓練とするよう努力する。



質問に立つ 増田 裕一

● 耐震診断について

- Q. 平成17、18年度の耐震診断の実績を区としてどのように評価しているのか。
- A. 高い住宅耐震化のニーズに対応した施策が着実に進んでいる。
- Q. 本診断に「精密診断」を採用しているのはなぜか。
- A. より広範囲で複雑な木造住宅に対応できること、耐震性が正確に評価できることなどから採用している。
- Q. 近隣の中野区では、本診断に「一般診断」を採用し、本区より実績をあげている。「一般診断」に切り替え、実績を向上させるべきではないか。
- A. 「一般診断」は「精密診断」と比較して、耐震性の評価において精密度が緩和されているため、過度な補強を求める場合がある。工事費の増大などの区民負担を軽減し、耐震改修を取り組み易くするためには、設計段階で精度を向上させることが重要である。

● 治水対策について

- Q. 現在、都区間でどのような取り決めで河川管理を行っているのか。
- A. 都は河川敷地の財産管理、護岸や河床を大規模に改修する河川工事を行っている。区は河川の許可事務及び日常の補修工事や清掃などの維持管理を行っている。
- Q. 水害を未然に防ぐ意味でも、定期的に河川の浚渫（しゅんせつ）を行うべきではないか。
- A. 今後も、治水の観点から必要に応じて河川の浚渫を行う。

● AEDについて

- Q. 区内の公共・民間施設への設置状況を把握しているのか。設置場所を地図等に記載すべきではないか。
- A. 区以外の民間施設については十分情報を持っていない。民間の設置場所も含め情報を収集し、ホームページ等で地図に落とししていきたい。
- Q. AEDの設置及び運用に関して、今後の区の方針を問う。
- A. 今後も、AEDを含めた心肺蘇生を迅速・正確に行える区民の養成に注力していく。

